

農業農村Webカレッジ講座

平成 29 年度講座のご案内

農業農村Webカレッジ講座 平成 29 年度講座(4 月 15 日～3 月 31 日)の実施内容及び受講料は以下のとおりです。

【講座】(平成 29 年 7 月 15 日現在)

受講を希望される講座を下表の中から選んでください。

なお、本講座は技術者の継続教育を趣旨としていることから、基本的に、**過年度に申込みし受講修了された講座とは、別の講座をお申し込みください。**(過年度に申込みしたが修了しなかった講座については、再びお申し込みいただいてもかまいません。)

※「講座 89 次世代に向けての農業水利システムの設計の考え方」以降が今回追加した講座です。

なお、期間中に新講座を適時追加する予定です。

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
100	新規国営地区の事業化方策及び大学生サークル・農村マッチングプロジェクト	多様化する農村地域において、国営地区の事業化のための有効策を示唆するとともに、次代を担う若者世代への働きかけ(プロジェクト)に関して事例を示して講義する。
	中里 良一(関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所 所長)	
99	コミュニティ再編のカギは「楽しみ」にあり	都市住民を農村地域に呼び込む都市農村交流や、複数の集落で緩やかにつながる集落間連携の事例を取り上げ、コミュニティ再編の鍵について講述する。
	坂田 寧代(新潟大学農学部生産環境科学科 准教授)	
98	ため池の防災支援システムの開発	ため池の情報を統合管理し、豪雨・地震時の決壊被害をいち早く予測し、決壊防止や避難対策を支援する「ため池防災支援システム」について学習する。
	堀 俊和(農村工学研究部門 施設工学研究領域 土構造物ユニット長)	
97	山岳トンネルの施工と管理について	トンネルの掘削、防水、覆工コンクリートについての施工方法、施工管理(施工中の調査、計測等)について学習する。
	橘高 豊明((株)奥村組 土木本部 土木統括部 土木技術室 山岳トンネル技術担当部長)	
96	スマートフォンを活用した雨量の観測システムによる自主防災力の向上	山梨県内某地区で取り組んだ自主防災能力向上実証試験を踏まえて開発した「我がこと防災意識」の醸成による地域防災力の維持・向上手法について紹介する。
	重岡 徹(農村工学研究部門 施設工学研究領域 地域防災ユニット 上席研究員)	
95	水田営農の省力化と高度化を実現する農地基盤整備技術	効率的な営農を可能とする大区画化の事例や整備技術など最新の農地基盤整備技術について解説する。また、GPSやICTを活用した営農管理技術についても解説する。
	若杉 晃介(農村工学研究部門 農地基礎工学研究領域 水田整備ユニット 主任研究員)	
94	GIS等を活用した土地資源の評価に関する技術開発	GIS やリモートセンシング等を駆使し、農業農村情報の収集・推定と見える化、他の解析技術と統合した技術について紹介する。
	小川 茂男(農村工学研究部門 技術移転部 部長)	
93	沿岸部農地に適用する浸水解析	津波等の浸水被害を例に浸水解析の必要性を解説し、農業地域の被害推定に必要な浸水解析手法の基本を学習する。
	桐 博英(農村工学研究部門 水利工学研究領域 沿岸域水理ユニット長)	
92	土地改良資本ストックの動向と長寿命化の効果	資本ストックとは何か、資本ストックの定量化手法、ストックマネジメントによる資本ストック維持効果の評価方法等について学習する。
	國光 洋二(農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 資源評価ユニット長)	

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
91	表 農 コ 準備中です。(8月下旬頃アップ予定)	
90	備えあれば憂い(少)なしー平成28年熊本地震に思うリスク管理、危機管理ー 戸上 訓正(東京農業大学 地域環境科学部 非常勤講師)	リスク管理の実情(事例)を分析し、技術者としてどのようにしてリスクを回避すべきかについて学習する。
89	次世代に向けての農業水利システムの設計の考え方 中 達雄(農村工学研究部門 水利工学研究領域フェロー)	農業水利技術者が身につけるべき基本的な知識と次世代に向けての農業水利システム設計の視点とあり方について講義する。
88	水田営農の大規模化に応える水管理の省力化・効率化技術 田中 正(積水化学工業(株) 部長)	今後新たな展開が見込まれる大区画圃場に適用できる自動用水供給施設に関して開発内容等を学習する。
87	農業水利施設の維持管理問題 郷古 雅春(宮城大学 食産業学部 教授)	土地改良区を中心とした日本の参加型灌漑管理の地域性、独自性を持続させるための要因等について学習する。
86	ため池堤体の耐震性評価手法に関わる考察について 森 洋(弘前大学農学生命科学部 准教授)	ため池堤体の評価手法である震度法による準静的解析の適用性を示す。また、塑性すべり解析や動的応答解析を含めた耐震評価手法の考え方等について学習する。
85	地盤の圧密変形と実測値に基づいた沈下予測手法 金山 素平(岩手大学 農学部 准教授)	盛土構造物は建設後に長期にわたる残留沈下が観測されていることから、新たにマイクロスケールにおける力学的挙動の定量評価とその応用について学習する。
84	農業水利施設のストックマネジメントー関連技術書策定をめぐる話題とその後の対応ー 長束 勇(島根大学生物資源科学部 教授)	現在活用されているストックマネジメントに関する各技術図書(策定委員会)において議論された幾つかの話題について学習する。
83	真の低コスト稲作の実現のための大区画水田整備 石井 敦(筑波大学生命環境系 教授)	担い手農家への農地の利用集積、集積された農地の集団化、集団化された農地の巨大区画化を同時に行うことによる、国際競争力をもった稲作経営について学習する。
82	北海道開拓と土地改良 長澤 徹明(北海道大学 名誉教授)	北海道における開拓歴史と土地改良の位置づけと関わり等について学習する。
81	干拓地盤の理工学的性質および石炭灰等の廃棄物を利用した地盤改良材について 近藤 文義(佐賀大学農学部 教授)	有明海特有の軟弱地盤特性の評価と地盤改良材料として石炭灰等の廃棄物を利用する場合の有用性について学習する。
80	農村農地の保全と防災 中村 真也(琉球大学農学部 教授)	地盤特性は多様であり立地も異なる。地盤特性と降雨量や浸透水の過多に由来する様々な土砂災害、減災への取り組み、畑地土壌と水との関係等について学習する。
79	技術士(農業部門)第二次試験受験対策 雑賀幸哉(株)サンスイコンサルタント)	選択科目(記述式)の概要、試験科目と問題の種類、農業土木問題の解答作成ポイント・出題傾向と対策について解説する。 注:本講座は「平成29年度 技術士第二次試験 受験の手引き 農業部門(農業土木・農村環境)」(全国農業土木技術士会編著、(公社)土地改良測量設計技術協会発行)に基づくものです。
78	排水機場の電動機形式の検討について 小山内清潤((一社)農業土木機械化協会 技術部長)	立軸ポンプに採用した場合の、電動機及び減速機の軸形式の検討について、維持管理性も考慮すべきであることを事例を紹介しながら解説する。

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
77	排水機場の主ポンプ形式の検討について	排水機場において、吸水位と吐出し水位が同一の高さとなる場合、横軸ポンプではなく立軸ポンプが採用されることがあるが、経済性に優れている横軸ポンプを採用するための設計とその事例を紹介する。
	小山内清潤((一社)農業土木機械化協会 技術部長)	
76	限界状態設計法によるボックスカルバートの設計(その2)	鉄筋コンクリートボックスカルバートの荷重の計算、断面設計、終局限界状態、せん断力、使用限界状態等について学習する。
	溝渕利明(法政大学 教授)	
75	パイプラインのリスク管理と性能照査法(まとめ)	パイプラインの故障とその事例、今後の高圧パイプラインのリスク管理の在り方及び水理学的安全性の照査方法について解説する。
	中 達雄(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
74	限界状態設計法による鉄筋コンクリート逆T形擁壁の設計(その3)、ボックスカルバートの設計(その1)	鉄筋コンクリートボックスカルバートを例題として、限界状態設計法における、設計条件、安定計算について概説する。
	溝渕利明(法政大学 教授)	
73	パイプラインの構造機能と地震被害	農業用パイプラインの構造機能や設計に関する基本的事項と、東日本大震災での事例を通して、農業用パイプラインの地震被害の特徴や調査・対策について学習する。
	有吉 充(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 主任研究員)	
72	限界状態設計法における鉄筋コンクリート逆T形擁壁の設計(その2)	鉄筋コンクリート逆T形擁壁の鉛直壁について、荷重の計算、断面設計、終局限界状態、せん断力に対する検討等を行う。
	溝渕利明(法政大学 教授)	
71	農業水利(水田、畑地)のためのパイプラインのシステム設計	水源などの上流端の圧力を安全かつ経済的に末端のファームポンド、分水口や給水栓まで伝達させる、パイプラインシステム設計の一般原則等について解説する。
	中 達雄(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
70	豊川用水の概要	東三河地方の農業、工業における地域発展の礎となっている、豊川用水の事業の経緯や構造物の開発・発展について学ぶ。
	飯田直宏(独立行政法人水資源機構 総合技術センター 水路グループ長)	
69	限界状態設計法による鉄筋コンクリート逆T型擁壁の設計(その1)	鉄筋コンクリート逆T型擁壁を例題として、限界状態設計法の設計条件、安定計算について説明するとともに、曲げを受ける部材、せん断力等の検討を行う。
	溝渕利明(法政大学 教授)	
68	鉄筋コンクリートの設計法	鉄筋コンクリートの歴史について概説するとともに、限界状態設計法を中心とした鉄筋コンクリートの設計法を概説する。
	溝渕利明(法政大学 教授)	
67	トライボロジーを活用した農業用ポンプ設備の機能診断技術	トライボロジー(摩擦学)という科学技術を用いて、油中に含まれる金属摩耗粒子の量等から、ポンプ設備を分解せずに軸受等の摩耗状態を把握する技術を学習する。
	國枝 正(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
66	農業水利(水田、畑地)のためのパイプラインの水利利用機能	パイプラインのシステムとしての配水均等性や弾力性等の水利利用機能の特性や調整機能等の具体的対策について学習する。
	中 達雄(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
65	長期供用された農業用水路の機能診断技術	長期間供用されたコンクリート水路の変状の原因を考察し、推測されるコンクリート水路の劣化メカニズム等について学習する。
	森 充広(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 主任研究員)	

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
64	新技術の紹介 I ①回転式破砕混合工法による建設発生土リサイクル技術 ②固結工法による既設構造物の液状化対策・耐震補強技術	①回転式破砕混合工法による建設発生土リサイクル技術の特徴、技術、設備について、施工事例をあげて学習する。 ②既設構造物直下の地盤改良が可能な高圧噴射攪拌工法・薬液注入工法を主とした地盤の固結工法について学習する。
	①新井英夫(日本基礎技術(株) 課長) ②初山幸治(ケミカルグラウト(株) 部長)、今野かおる(ケミカルグラウト(株))	
63	農業水利(水田、畑地)のためのパイプラインの水利	水利設計に必要な管水路の水利、摩擦損失水頭の算定などの定常解析と水撃圧等の非定常解析について解説する。
	中 達雄(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
62	EXCEL による水路工の水利設計演習	中小規模の水路工事について、土地改良設計基準に準拠し、演習形式で水利計算の考え方と手順について学習する。
	江頭 輝((公益)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	
61	農業水利(水田、畑地)のためのパイプライン概論	開水路と比較しながら、パイプラインのシステムと水利・水利用機能の特性について、学習する。
	中 達雄(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 上席研究員)	
60	水利施設と地盤の境界部での浸透破壊のメカニズム	矢板、頭首工、コンクリート製の特殊堤防など止水を目的とした水利施設のヒービングやボイリングなどの危険性について学習する。
	岡島賢治(三重大学大学院 准教授)	
59	東日本大震災のがれきはどのように処理されたかーリサイクルを考えるー	東日本大震災のがれきはどのように処理されたかを振り返るとともに、リサイクルにおける建設業の役割を学習する。
	北辻政文(宮城大学 教授)	
58	農地地すべりの応急対応	山形県鶴岡市七五三掛地区で発生した地すべりを事例として、地すべりに対する効果的な観測と対策について学習する。
	奥山武彦(山形大学 教授)	
57	魚道の水利特性と魚の遡上遊泳行動	頭首工魚道の水利特性による魚の遡上形態ならびに魚道を利用する魚の遊泳能力等について調査研究結果に基づき学習する。
	泉 完(弘前大学 教授)	
56	十勝地方における耕地防風林の多面的機能	減少傾向が続く十勝地方の防風林について、緑の楯としての防風効果にとどまらない、その多面的機能を学習する。
	辻 修(帯広畜産大学 教授)	
55	農業用水資源としての地下水および湖水における物質動態	地下水や湖水における水、溶質、熱の動きに関し、現地観測、室内実験および数値モデルに基づく研究成果について学習する。
	梶井和朗(鹿児島大学 教授)	
54	世界と日本の揚水器(機)・ポンプの歴史	古代から揚水機・ポンプは農業への利用に始まり、世界各地で多数開発されてきた。この歴史の一端を学習する。
	富澤清治((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	
53	農村振興技術者の今後を考える ～時代の要請に応えていくために～	時代の要請に応えていくために、農業農村技術者の今後について学習する。(水路編)
	太田信介(NPO 法人 美しい田園21 会長)	
52	農業土木分野における会計検査指摘事例の解説 II	最近の会計検査報告における農業土木分野に関する指摘事例を学ぶことにより、同様な指摘をうけないように学習する第2回目。
	市川啓次郎(元会計検査院国土統括検査室長)	
51	長期供用ダムにおける地震観測記録に関する評価検討手法	農業用ダムに設置されている地震計、およびその観測記録と評価解析手法について学習する。
	黒田清一郎(農村工学研究所 主任研究員)	

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
50	農業土木分野における会計検査指摘事例の解説 I 市川啓次郎(元会計検査院国土統括検査室長)	最近の会計検査報告における農業土木分野に関する指摘事例を学ぶことにより、同様な指摘をうけないように学習する第1回目。
49	ほ場の総合的な排水改良技術の確立 北川巖(農村工学研究所 主任研究員)	排水改良、機能低下や土壌特性に対応する追加的な改良を併用したほ場の総合的な排水改良技術を学習する。
48	公共補償について 高橋良功(土地改良測量設計技術協会 技術研究委員)	国営土地改良事業の施行に伴う、公共施設等に対する補償の方針及び機能を回復する現物補償の方法等について学習する。
47	土地改良事業における財産権の取扱いについて 藤本知夫(土地改良測量設計技術協会 技術研究委員)	国営土地改良事業の実施に係る財産権等の取扱い方針、国営土地改良事業における更新事業の影響の形態等について学ぶ。
46	農村の生活環境整備とエネルギー自給 山路英司(東京大学 教授)	農村空間における生活環境をどのように整備すべきか、また、我が国の農村エネルギーの自給自足の可能性について学習する。
45	世界の水から日本の食料を考える 谷山重孝(ICID 名誉副会長)	世界の食糧需給と水の動向、北アフリカ、インド、中国の事例を取り上げ、今後の水利用とその問題点を学習する。
44	ITを活用した用水管理(愛知用水の事例)について 小酒井徹(水資源機構 次長)	ITを活用した集中監視制御を実現させている愛知用水の事例報告と、水路システムの不具合改善の取り組み事例を学習する。
43	技術者倫理 大橋欣治(東京農業大学 客員教授)	今、何故技術者の倫理かについて、様々な失敗の原因や事例を基に学習する。
42	農業水利コンクリート構造物の機能診断 渡嘉敷勝(農村工学研究所 主任研究員)	農業水利施設のコンクリート構造物を対象とした、機能診断フロー、劣化メカニズム、補修・補強対策について、学習する。
41	トンネル耐震解析の取り組み 有野治((独)水資源機構 上席エンジニア)	水資源機構が進めている岩トンネルの耐震解析の手法について学習する。
40	長期供用ダムの機能診断－既設ダムの耐震性能調査－ 林田洋一(農村工学研究所 主任研究員)	既設農業用ダムに対する耐震性能調査に関する基本的な考え方と、その手法について学習する。
39	リスク評価からの機能保全対策検討の手筋 岩村和平((独)水資源機構 副理事長)	水利施設のリスク評価をもとに機能保全対策検討の手筋について学ぶ。
38	フィルダムの耐震性照査法とその問題点 小林 晃(関西大学 教授)	全国のダムの耐震性照査をもとにダム委員会での議論されている話題について学ぶ。
37	寒冷地における水利施設の機能診断及び対策工法 緒方英彦(鳥取大学 准教授)	寒冷地における水利施設の機能診断及び対策工法について学ぶ。
36	自動減圧弁を用いたパイプラインの機能診断 稲垣仁根(宮崎大学農学部 教授)	管路の固有振動周期と減圧弁の設置位置起因する自励進藤の発生メカニズムについて学ぶ。
35	板羽目堰の構築・開放技術の継承と地域づくり 中村好男(東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科 教授)	明治期から大正期に建設された板羽目堰の技術と、貴重な水利資産として復元され、地域づくりに貢献する状況について学ぶ。
34	ため池の耐震設計例と米国ダム管理例 上田一美((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	2011年東日本大震災のため池被害に関する一考察及びアメリカ開拓局におけるダム管理の一手法について学ぶ。
33	水利権制度と河川水資源問題 岡本雅美(元日本大学生物資源科学部 教授)	「水利権」制度から、河川水資源の自然特性、歴史・地理・経済・財政・政治・行政・水利土木技術・水利組織等の実態を学ぶ。
32	農業水利施設を利用した小水力発電 後藤眞宏((独)農村工学研究所 上席研究員)	我が国の小水力利用、小水力発電の基盤、農業水利施設を利用した小水力発電の現状と今後の展望について学ぶ。

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
31	アースダム・堰の耐震照査(動的解析)について	アースダム・堰の耐震照査を動的解析により解説し、今後の耐震照査について学ぶ。
	加藤智雄((独)水資源機構 総合技術センター マネージャー)	
30	水利システムの機能と性質	水利システムの更新事業を成功させるために必要な、水利システムの機能と性能の基本的な考え方について学ぶ。
	樽屋啓之((独)農村工学研究所 上席研究員)	
29	用水路を拓くーアフガンに命の水をー	戦時下の東部アフガニスタンに農業用水路を建設し、荒れた砂漠の地をアフガン屈指の穀倉地帯に復活させた方法を学ぶ。
	中村哲(医師 PMS(ピースジャパン・メディカル・サービス)総院長・農業土木技術管理士)	
28	土地改良事業用地調査等請負業務事務処理要領 質疑応答集及びその一部改正内容について	土地改良事業用地調査等請負業務事務処理要領の質疑応答集及びその一部改正内容について学ぶ。
	(公社)土地改良測量設計技術協会用地部	
27	水田の高度利用を可能とする地下水位制御システム FOEAS	転作時の安定多収効果及び水稲栽培時の省力化や節水効果等が期待できる地下水位制御システムFOEASについて学ぶ。
	若杉晃介((独)農村工学研究所 主任研究員)	
26	農村振興におけるGISの活用	GISの歴史等を振り返ると共に、GISの活用事例をもとに、農地の自主管理におけるGISの活用方法等について学ぶ。
	木下貴裕(熊本県土地改良事業団体連合会 事業部主任)	
25	水田生態工学入門	資源循環型の農村社会、二次的自然の変質と望ましい二次的自然、水田生態工学による環境修復方法等について学ぶ。
	水谷正一(宇都宮大学 名誉教授)	
24	生物多様性と生態系配慮について	誤解しやすい点・意外な点を中心に、農業農村整備事業の現場を意識しながら、生態系と生物多様性について学ぶ。
	森 淳((独)農村工学研究所上席研究員)	
23	農村地域における自然再生エネルギーの総合的活用	自然エネルギーやバイオマスエネルギー等の再生可能エネルギーを効率的に組み合わせた発電ポテンシャル等について学ぶ。
	中坪秀彰(NTC コンサルタント(株) 開発事業 新規事業担当部長)	
22	地域資源を活用したバイオマス利活用の展開方向	バイオマスの情勢・情報、農工研の取組状況及び健全なバイオマスタウンの構築と運営等について学ぶ。
	柚山義人((独)農村工学研究所 上席研究員)	
21	ダム・ため池の設計施工の留意点	永年、フィルダムの設計・施工管理に携わってきた中で得た、ダムの設計施工における留意事項等について学ぶ。
	増田明德((株)三光技術コンサルタント 技師長)	
20	ため池の被害と診断・対策	事例をもとに、地震や豪雨によるため池被害の現状、ため池の診断方法、ため池の減災対策方法等について学ぶ。
	堀 俊和((独)農村工学研究所 上席研究員)	
19	開水路システムの管理技術(愛知用水二期事業の事例)	愛知用水二期事業を事例に、水需要変化への対応、二期事業における設計の特徴、水管理システムについて学ぶ。
	益田和範((公財)愛知・豊川用水振興協会 副理事長)	
18	水資源機構における水路施設のリスク管理についてー増加する施設の老朽化対応を中心にー	事例をもとに、増加する施設の老朽化対応を中心に、水路施設の現状と課題、リスク管理について学ぶ。
	井爪 宏((独)水資源機構 技術管理室次長)	
17	水路システムの水理・水利用機能診断	用水路システムの水利機能診断カルテの事例等により、事業計画上の水路システムの水利用機能の着眼点等について学ぶ。
	中 達雄((独)農村工学研究所 水利工学研究領域長)	
16	農業水利施設のストックマネジメントー戦略的な保全管理対策と今後の動向ー	性能管理による機能保全、機能保全対策の各段階における課題、機能保全実施における今後の動向等について学ぶ。
	長束 勇(島根大学 教授)	

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
15	ストックマネジメント支える技術開発	農業水利施設の現状、劣化症状、地震・豪雨による破壊症状等を知ると共に、ストックマネジメントを支える技術等について学ぶ。
	中嶋 勇 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	
14	畑地かんがいの計画と設計について	畑地かんがいの計画と設計の策定手順、用水計画、かんがい方法等の留意点等について学ぶ。
	中野芳輔 (九州大学 名誉教授)	
13	生存基盤とその技術を考える	我々の生存基盤(用水はその代表的なもの)とその技術(農業土木)の意味と特徴について学ぶ。
	川尻裕一郎 ((一社)農業農村整備情報総合センター 客員研究員)	
12	農業農村整備の今日的役割	土地改良の歴史、土地改良と他の公共事業との主な違い、課題や取り組み状況等について学ぶ。
	高嶺 彰 ((一社)地域環境資源センター 総合技術監)	
11	現場に根差した農村工学技術論	世界から見た日本の農業、農村の現状について知ると共に、地域農業と地域社会の現場に求められていることについて学ぶ。
	勝山達郎 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	
10	水士の歴史を振り返る (農業土木事業史)	弥生時代以降の農業土木の歴史を年代毎に振り返ると共に、今後の農業土木事業の展望について考える。
	元杉昭男 (東京農業大学 客員教授)	
9	八郎潟干拓地の土壌と水環境	八郎潟の生い立ちと干拓の歴史、八郎潟干拓の光と影及び残存湖における水質改善の動向等について学ぶ。
	佐藤 敦 (秋田県立大学 名誉教授)	
8	水と土の文化論 -農の立場から-	生物の生存基盤である地球、「水」の持つ多面的な意味・機能等、水と土の文化論について、農の立場から学ぶ。
	大橋欣治 (東京農業大学 客員教授)	
7	農業土木技術者の倫理	技術者とは何か。技術者倫理とは何か。農業土木技術者の倫理、組織の技術倫理等について学ぶ。
	村田稔尚 ((公社)日本技術士会 倫理委員会委員)	
6	地球環境の時代に 農業農村整備を通じて私たちは何をめざすか	地球環境問題の発生要因、取り組み状況及び将来予測を知ると共に、農業農村整備を通じて私たちは何ができるかを考える。
	中道 宏 (元日本水土総合研究所 理事長)	
5	”農業水利の歴史に学ぶ” -筑後川中流4堰を例として-	筑後川中流4堰を例として、農業水利の歴史を学ぶと共に、今後の展望等について考える。
	黒田 正治 (九州大学 名誉教授)	
4	江戸時代の土木技術を探る	印旛沼堀割普請の古文書をもとに、江戸時代の普請体制、堀割普請の測量・設計及び工事費積算等について学ぶ。
	松本精一 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	
3	農業と水質	水質基準の意味と農業用水基準、農業と水環境との関係及び農業用水の水質保全の目的と対策について学ぶ。
	白谷栄作 ((独)農村工学研究所 業務推進室長)	
2	農業農村工学が取り組む「問題土壌」	農地土壌に焦点をあて、農業農村工学が立ち向かうべき「問題土壌」への取り組み等について学ぶ。
	成岡 市 (三重大学大学院 教授)	
1	農業土木技術者の役割 (TPP の時代を前に)	農業と農村にとって厳しい状況の中、これまでの農業土木を振り返ると共に、農業土木技術者の今後の役割について考える。
	大串和紀 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	

※講師の方の役職等は、本講座作成当時のものです。

【日程】 平成29年4月15日(土)～平成30年3月31日(土)

- ※1 **申し込まれた講座は上記期間中に必ず完了して頂く必要があります。**完了できなかった分を次年度講座へ繰り越すことは出来ません。また、受講料の払い戻しも出来ませんのでご了承ください。
- ※2 **申し込まれた講座の受講が完了し、当協会から受講証明書を発行した時点で、その講座は視聴出来なくなります**のでご了承ください。(受講証明書の発行は、基本的に、全ての講座が完了した翌月上旬に発行しております。)

【受講料】

当協会の会員企業の職員と、非会員企業又は賛助会員団体の職員とでは受講料が異なりますので、ご注意下さい。なお、所属している会社が協会会員企業かどうか不明の場合は、下記URLにてご確認ください。

<http://www.sderd.or.jp/kaiinmeibo/pdf/seikaiin.pdf>

<会員企業の職員の場合>

1講座当りの受講料は、同時申込の講座数に関係なく一律で、下表の単価の通りとなります。

受講料(税込)	CPDポイント数	1CPD当り受講料
¥1,500/1講座	2ポイント*/1講座	1CPD 当り 750円

平成29年4月3日現在

*上記 CPD 単位数は、農業農村工学会 技術者継続教育機構の登録ルールに基づくものです。他の建設系 CPD 協議会加盟団体に申請する場合は、申請する各団体の CPD 登録ルールに基づきます。

<会員企業職員の受講料の計算例>

例1) 同時に5講座お申込みいただいた場合

5講座×¥1,500=合計受講料¥7,500。-

例2) 同時に10講座お申込みいただいた場合

10講座×¥1,500=合計受講料¥15,000。-

例3) 同時に3講座申し込み受講料を振り込んだ後に、追加で2講座お申込みいただいた場合

当初申込の3講座×¥1,500+追加申込の2講座×¥1,500

=¥4,500+¥3,000=合計受講料¥7,500。-

- ※1 一度お申し込みいただいた後の**追加申し込みは可能**です。**HP申込画面の”ログインIDと仮パスワードをお持ちの方”**として申し込んで下さい。

<非会員企業又は賛助会員団体の職員の場合>

1講座当りの受講料は、同時申込の講座数によって異なり、下表の単価の通りとなります。

同時申込の講座数	受講料(税込)	CPDポイント数	1CPD当り受講料
1～3講座	¥2,000/1講座	2ポイント*/1講座	1CPD 当り1,000円*
4～6講座	¥1,800/1講座	2ポイント*/1講座	1CPD 当り 900円*

7～9講座	¥1,700/1講座	2ポイント*/1講座	1CPD 当り 850 円*
10 講座以上	¥1,600/1講座	2ポイント*/1講座	1CPD 当り 800 円*

平成29年4月3日現在

*上記 CPD 単位数は、農業農村工学会 技術者継続教育機構の登録ルールに基づくものです。他の建設系 CPD 協議会加盟団体に申請する場合は、申請する各団体の CPD 登録ルールに基づきます。

※1 同時にお申し込みいただいた場合の金額です。

※2 一度お申し込みいただいた後の追加申し込みは可能ですが、すでにお振込みいただいた講座分の金額は変更できません。追加分に対してのみ延申込講座数に応じた単価が適用されます。(なお、追加申し込みはHPの申込画面の”ログインIDと仮パスワードをお持ちの方”として申し込んで下さい。)

<非会員企業又は賛助会員団体職員の受講料の計算例>

例1) 同時に5講座お申し込みいただいた場合

5講座×¥1,800=合計受講料¥9,000.-

例2) 同時に10講座お申し込みいただいた場合

10講座×¥1,600=合計受講料¥16,000.-

例3) 同時に3講座申し込み受講料を振り込んだ後に、追加で2講座お申し込みいただいた場合

当初申込の3講座×¥2,000+追加申込の2講座×¥1,800

=¥6,000+¥3,600=合計受講料¥9,600.-

【CPDポイント】1講座につき、2ポイント*となる見込みです。

*上記 CPD 単位数は、農業農村工学会 技術者継続教育機構の登録ルールに基づくものです。他の建設系 CPD 協議会加盟団体に申請する場合は、申請する各団体の CPD 登録ルールに基づきます。

【申込期間】 平成29年4月15日(土)～平成29年3月10日(土)

【申込方法】 協会ホームページの申込ボタンからお申し込みください。(申込開始日になるまで申込ボタンは表示されません。)

なお、今回”初めて申し込まれる方”と、過年度等に受講したことがある”ログインIDと仮パスワードをお持ちの方”(平成26年度～平成28年度講座を申し込んだ方、または平成29年度講座を申し込まれた後に追加で講座を申し込まれる方)とでは下記の通り申込方法が異なります。ご注意ください。

<はじめて受講される方>

「申込」ボタンをクリックすると、「はじめての方はこちらをクリックしてください。」という文字列が表示されますので、その文字列をクリックし、申込画面へ進み必要情報を記入してください。

<ログインIDと仮パスワードをお持ちの方>

「申込」ボタンをクリックすると、「ログイン ID と仮パスワードをお持ちの方はこちらから、お申し込みください。」の文字の下に、ログイン ID と仮パスワードを入力する欄があります。既得のログイン ID と仮パスワード(受講者様で登録し直したパスワードとは異なります。)を当該欄に入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。申込画面の詳細に進みますので、希望する講座を選択してください。(前回申込時の情報が表示されますので、所属先等に変更がある場合には修正してください。)

※1 平成26年度～平成28年度講座を受講された方、平成29年度講座を申し込んだ後に更に追加で講座を申し込まれる方は”ログイン ID と仮パスワードをお持ちの方”として申し込んでください。

※2 平成25年度の Web カレッジを受講された方で、平成26年度以降の講座を受講されていない場合は、”はじめて受講される方”として申し込んでください。

【振込方法】 振込方法は、郵便振替による方法と銀行口座振り込みの2通りあります。
なお、振込手数料は受講者様のご負担にてお願いします
また、協会会員企業の職員として申し込みされた場合には、当協会にて会員企業であることを確認させていただいた後に、受講料等を改めてメールにてお知らせいたします。

郵便振替の場合

申込後に、受講申込受付通知(メール)が届きますので、その内容を確認した後、記されている金額を郵便局指定の郵便振替払込用紙を使用して、下記の郵便局口座へお振り込みください。

口座名義：(公社)土地改良測量設計技術協会

口座記号番号：00120 -1-97558

振込金額：申込受付確認メールに記載されている金額です。

また、郵便振替払込票の通信欄に下記の事項を必ずご記入ください。

- ① 平成 29 年度農業農村 Web カレッジ講座受講
- ② 受講者名及び勤務先名(勤務先で複数人をまとめてお振込頂く場合は、会社名と申込者全員のお名前をご記入ください。)
- ③ 受付番号(受講申込受付通知メールに記載されている受付番号です。複数人をまとめてお振込頂く場合は、全員の受付番号をご記入ください。)

銀行口座振込の場合

申込後に、受講申込受付通知(メール)が届きますので、その内容を確認した後、記されている金額を下記のゆうちょ銀行口座へ銀行窓口またはコンビニ等の銀行 ATM からお振り込みください。

口座名義：(公社)土地改良測量設計技術協会

口座番号：当座預金 店名〇一九 口座番号 97558(右詰め)

振込金額：申込受付確認メールに記載されている金額です。

受付番号：送金者のお名前の前に必ず受付番号を入力して下さい。

(例、W14123456 キョウカイトロウ)

【キャンセルについて】

※1 受講料お振込み前の受講講座の変更またはキャンセルは可能です。農業農村 Web カレッジ事務局までメールにてご連絡ください。(メールには、お名前と受付番号(ログインID)を明記ください。)

※2 一旦受講料をお振り込みいただいた後、受講者様のご都合でキャンセルされた場合には、受講料の返却はいたしかねますので、ご了承ください。

【問い合わせ先】

農業農村 Web カレッジ事務局 ((公社)土地改良測量設計技術協会内)

E-mail: nn-webcollege@sderd.or.jp

電話:03-3436-6800